



建築人

6

2018



大阪ホンマもん

建築人

6
2018

目次

大阪ホンマもん

インフォメーション・事業案内

動静レポート

Topics

Gallery 建築作品紹介

竹中研修所「匠」増築

設計 竹中工務店 施工 竹中工務店

武庫愛の園幼稚園東館

設計 コンパス建築工房 施工 宮崎建設

CROSS ROOFの家

設計 井上久実設計室 施工 西友建設

記憶の建築 松隈 洋

イズミ家 一九七二年

石の住宅に込められたもの

建築の射程 豊田保之

伝統土壁と省エネの共存は可能なのか？

第62回大阪建築コンクール入賞発表

理事会報告 建築相談室から 編集後記

活動する「建築人」の触媒として

事業委員会
委員長 徳岡 浩二



事業委員会は青年、女性、シニア、国際、賛助の各分科会が、田中義久担当副会長のもと、建築士法第二二条研修をはじめ、多様な事業活動を行なっている。

青年分科会では建築の親子教室「まちをつくろう」一般参加者向けの「家づくりシミュレーション」などの恒例企画に加え、建築家講演会「空間を語る」木構造勉強会などを計画している。

女性分科会では在阪他団体とのネットワークの強化を継続しつつ、市民向けセミナー研究活動を行う予定であり、大阪市からの「高齢者住宅改修費給付事業審査業務」委託事業にも取り組んでいく。

シニア分科会では、サロンの雰囲気や大切にしながら見学会、昼食会など交流懇親の場を設けている。

国際分科会は建築文化を国際的視野で捉えた見学会、セミナー、海外研修旅行企画だけでなく、国際情勢が建築界に与える影響についての学習会も企画中である。

賛助分科会では賛助企業の工場や見学やセミナーを積極的に開催して、建築士との相互協力関係を構築している。

本年度は更に他の委員会との共同事業を通じて各委員間の連携強化により、活動の相乗効果を上げることを目標にしている。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市中央区北船場エリアの御堂筋と堺筋に挟まれた三休橋筋沿いに美しい教会が建っている。このエリアは市内屈指のオフィス街でありながら、近代建築が多く集まっており、この「日本基督教団浪花教会」もそのひとつだ。

元々、この地にあった木造で建てられた教会堂の建替えを計画。新しい教会堂は、英語教師として来日しキリスト教の伝道とその主義に基づく社会活動などを続けたウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏が立ち上げたヴォーリズ建築事務所的设计指導のもと、竹中工務店が設計・施工を担った。建物は三階建てで構造は鉄筋コンクリート造とされ、昭和五年（一九三〇年）に竣工した。

ゴシック様式でつくられた教会堂は、限られた敷地を踏まえたプランとされ、一階に集会室を配し、二階に礼拝堂を設けた。ファザードは特徴ある尖塔アーチが連続しており、その窓に嵌め込まれた色ガラスが内部空間を美しく彩っている。

この建物は、まちなかにある美しいレトロ建築ということだけでなく、そもそも教会には疲れきった人々を受け容れるという役割がある。教会のトップページには「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとにきなさい。休ませてあげよう。」（マタイ一章二八節より）と記されている。このエリアの憩い（救い）のひとつとなっているように思える。

大阪商業大学新校舎の見学会&講演会・活動報告会

2017年の4月に誕生した、大阪商業大学のユニバーシティ・コモンズリアクトを見学会を催します。設計を担当した久米設計の方に説明して頂きます。見学会後は、椅子デザイナーの講演会+「建築士の会東大阪」活動報告会も行います。地域以外の会員及び会員以外の方の参加も大歓迎です。報告会終了後は懇親会も予定しています。

日時 6月30日(土)

集合 近鉄小阪駅改札前 13:00

見学会 13:30～ 大阪商業大学、ユニバーシティ・コモンズリアクト他

講演会・活動報告会 15:30～

懇親会 17:30～

募集 30名(申し込み先着順)

参加費 1,000円(資料、保険、飲物代含む)

懇親会参加は別途4,000円程度

木を知れば建築はますます面白くなる木の話セミナー

「銘木は住空間にハまる」

7/3 CPD2単位 予定

木の話セミナーおよび銘木市場見学を実施します。

セミナー内容

- 1.含水率と収縮の関係性
- 2.木はなぜ反るのか、でも予測は可能!
- 3.適材適所を間違えると痛い目にあう
- 4.建築関係者が知っておきたい木の当たり前
- 5.各種エンジニアードウッドについての解説
- 6.各樹種、現物に触って、ニオイや質感を確認。

日時 7月3日(火) 14:00～16:30

懇親会16:30～

場所 ㈱岡本銘木店鳥飼支店
(摂津市鳥飼銘木町9-10)

講師 佐藤原二(㈱岡本銘木店代表取締役社長)

定員 30名(申込先着順)

参加費 会員1,000円 会員外1,500円

懇親会費 4,500円程度

地域分科会(北摂)・シニア分科会・国際分科会合同企画 竹中大工道具館見学

7/7 CPD3単位(予定)

地域分科会北摂とシニア分科会、国際分科会の合同企画で竹中大工道具館を見学します。大工道具に関する歴史とその実際、さらに建築としての竹中大工道具館について解説を聞きながら見学します。また企画展「聴竹居ー藤井厚二の木造モダニズム建築ー」が開催されていますので、合わせて見学します。

そのあと、三ノ宮までまち歩きをし、ヴォーリス設計の旧神戸ユニオンチャーチに寄ります。

日時 7月7日(土) 13:00～15:30見学
受付12:30から(会場入口付近)

会場 竹中大工道具館
神戸市中央区熊内町7-5-1

15:30～17:30 まち歩き

募集 40名

参加費 建築士会会員・ヘリテージマネージャー

1,000円 学生500円
会員外1,500円 入館料込

「MIRAIZA OSAKA-JO(ミライザ大阪城)」&「豊国神社秀石庭」見学会

7/21 CPD3単位(予定)

「MIRAIZA OSAKA-JO(ミライザ大阪城)」のリノベーションを担当された大和ハウス工業株式会社より設計担当者を講師にお迎えし、設計から工事に至るお話を伺ったうえで、講師と一緒に建物を見学します。また、大阪城豊国神社にある、大きな岩が特徴の「秀石庭」も見学いたします。通常は非公開ですが今回特別にお願いしました。見学会後に屋上レストランで懇親会を行います。(BBQ、フリードリンク付き4,980円予定)

日時 7月21日(土) 14:00～17:00

集合 本会会議室13:30より受付開始

参加費 会員1,000円 会員外1,500円
(資料代等含む、懇親会費別)

定員 40名(申込先着順)

「空間を語る」建築家講演会

9/7、9/14、9/20

椎名英三氏、竹山聖氏、大西麻貴氏の3人が交互に空間魅力についての「語り手」と「聞き手」になってトークリレー方式で解説することにより、空間に込められた思いへの理解を深め合う企画。

建築界の閉塞感を打破し、楽しく元気に建築の夢と魅力について考え、ともに語り合ひましょう。

日程 9月7日(金)、14日(金)、20日(木)

開場 18:00 講演 18:30～19:40

対談 19:50～20:40

終了後、懇親会(参加費4,000円)

場所 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

参加費 (各回)学生・入会3年以内の会員
1,000円
会員・後援団体会員2,000円
一般3,000円

出演 椎名英三、竹山聖、大西麻貴

モデレーター 山口千乃

第61回建築士会全国大会

さいたま大会

10/26

今年の建築士会全国大会は、埼玉で開催致します。会員には大会登録料5,000円を補助します。

テーマ 歴史に感謝 未来に約束

日程 10月26日(金)

会場 大宮ソニックシティ

※全国建築士フォーラム、全国ヘリテージネットワーク協議会総会は10月25日(木)に実施。

※地域交流見学会(エクスカーション)は10月27日(土)に実施。

申込 建築士5月号P31の参加申込書に必要事項をご記入の上、本会事務局に7月31日(火)までに提出下さい。

大会の詳細は「建築家5月号」をご覧ください。

Administration

行政からのお知らせ

「実感できるみどりづくり事業」募集

大阪府では、緑化施設の整備とあわせて、緑化促進活動に取り組み民間事業者を「実感・みどり事業者」として認定し、その活動について、PR、助成を行う実感できるみどりづくり事業を実施しています。

土地・建築物を所有されている施主が対象で、義務緑化以上の緑化施設の整備に、最大1,000万円の事業費補助があります。

募集期間

●「実感・みどり事業者」認定
平成30年5月9日(水)から平成31年3月8日(金)まで

●実感できるみどりづくり事業補助
平成30年5月9日(水)から6月21日(木)まで

詳細は、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pagelid=30798>

申込・問合せ 大阪府環境農林水産部みどり推進室都市緑化グループ
Tel.06-6210-9558

平成30年度大阪府住宅供給公社 住戸改善事業 事業提案競技

5/17～6/27

大阪府住宅供給公社では、広く民間事業者からそのノウハウを活かした提案を求めるため、堺市南区、寝屋川市、吹田市の団地において、子育て世帯や若年夫婦などの若年層向を中心とした住戸リノベーションプランの事業提案競技を実施します。

業務内容

【茶山台団地】2戸1化リノベーションプラン、1住戸リノベーションプラン、【香里三井、香里三井B】2戸1化リノベーションプラン、【千里山田西】1住戸リノベーションプラン

受付期間 5月17日(木)～6月27日(水)
午後5時

問合せ 大阪府住宅供給公社 経営管理部
住宅経営課 団地再生グループ
Tel.06-6203-5534(直通)

詳細は以下のホームページをご覧ください。
https://www.osaka-kousha.or.jp/x-whatsnew/2018_improvement_business_suggestion/index.html

大阪府石綿飛散防止対策セミナー

6/27

石綿(アスベスト)を使用した建築物等の解体、改修工事発注者及び施工者の皆さまに参考となる石綿飛散防止対策等について説明します。

日時 6月27日(水) 14:00～16:30

会場 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) 7階ホール
大阪市中央区大手前1-3-49

最寄駅 京阪、Osaka Metro「天満橋駅」

JR東西線「大阪城北詰駅」

申込 6月26日(火)までにインターネット又はFAX(06-6210-9584)でお申込みください。詳細は以下のホームページをご覧ください。

セミナー開催案内URL
<http://www.pref.osaka.lg.jp/jigyoshoshido/asbestos/30seminar.html>

申込専用URL
<https://www.shinsei.pref.osaka.lg.jp/ers/input.do?tetudukild=2018040060>

問合せ 大阪府環境管理室大気指導グループ
Tel.06-6210-9581

Others

その他のお知らせ

住宅医スクール2018大阪受講生募集

住宅改修に特化したプロ向け講座です。木造建築病理学の取組、最新建物調査手法、区画断熱Q*の評価方法、耐震診断実践、限界耐力計算の基礎、シロアリ駆除と予防法、木材の劣化メカニズム、防露と調湿、結露被害対策、防火改修、住宅医による改修実践事例紹介等を、実務者や研究者が解説します。

日時 6月16日(土)～2月(全8回、4講義/回)
各回10:30～18:15(受付10:00～)

会場 大阪工業技術専門学校6号館3階

定員 50名程度(定員に達し次第締切)

受講料 通年一括申込108,000円
(47,000円割引)

申込・問合せ (一社)住宅医協会
Tel.06-6454-3465
<http://sapi.or.jp>

第41回住宅メンテナンス診断士®講習会(大阪開催)

8/7 CPD5単位

木造住宅の「診断・評価や維持管理」の基本技術の講習会です。京都大学大学院農学研究科藤井義久教授による木造住宅の大きな課題である木材劣化についての講義も実施します。認定試験のない「講習コース」も実施します。

主催 (一社)住宅長期支援センター

日時 8月7日(火)

①講習&資格認定試験コース 9:25～16:50
参加費 27,000円

②講習コース 9:25～15:55
参加費 19,000円

会場 新大阪丸ビル別館4階4-1会議室
大阪市東淀川区東中島1-18-22

最寄駅 JR新大阪駅(東口徒歩約2分)

定員 80名(先着順)

締切 7月31日(火)
但し、定員に達し次第締切

問合せ (一社)住宅長期支援センター
Tel.06-6941-8336
<http://www.holsc.or.jp/>

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。
不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

既存住宅状況調査技術者講習 新規講習6/13、8/21、10/11 CPD5単位 移行講習6/18 CPD3単位

平成28年6月に宅地建物取引業法が一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に既存住宅状況調査が義務付けられました。調査の実施は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められ、新たな建築士業務となります。なお、従来のインスペクター登録者は同調査を実施できませんが、その方々を対象に規定の講義の一部を免除した移行講習も開催します。
<新規講習>
日時 6/13(水)、8/21(火)、10/11(木)
10:00～17:50
会場 大阪府建築健保会館
定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,060円
郵送申込21,600円
<移行講習>
日時 6/18(月) 13:00～17:50
会場 大阪府建築士会
定員 40名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込16,740円
郵送申込17,280円
<申込方法>
日本建築士会連合会HPよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/>

平成30年度建築士定期講習 8/27、9/18、10/22、11/28、12/18 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成27年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場
8/27(月) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-02
9/18(火) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-52
10/22(月) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-03
11/28(水) 大阪府建築健保会館
定員90名 会場コード5C-53
12/18(火) 大阪府建築健保会館
定員90名 会場コード5C-04
時間 9:25～17:00(各講習日共)
申込書必着日 8/27(月)講習: 7/23(月)
9/18(火)講習: 8/17(金)
10/22(月)講習: 9/18(火)
11/28(水)講習: 10/26(金)
12/18(火)講習: 11/13(火)
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料 12,960円(消費税込)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
(会場コード5C-02、5C-03、5C-04)
大阪府建築士事務所協会事務局
(会場コード5C-52、5C-53)
建築技術教育普及センターHPにてWEB申込みも可能です。
<https://jaeictkosyu.jp/jaeictaikikosyu/>

建築士法にもとづく建築技術講習会 集合住宅の騒音防止設計入門 6/20 CPD4単位

集合住宅では良好な音環境を実現するため、屋内外から居室へ伝搬する騒音を出来るだけ少なくなるように遮音設計がなされますが、騒音が全く聞こえない状態は保障できません。こうした集合住宅の騒音問題に対して、設計者や施工者に対応策の実例や計算方法などを易しく示し、防止設計方法を解説します。
日時 6月20日(水) 13:00～17:00
会場 TOTOTekニカルセンター大阪
定員 80名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員6,500円
後援団体会員7,500円
一般8,500円

大阪府知事指定講習 平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》 6/28・9/4・12/5 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習

は、国土交通大臣登録講習ではありません。)
日程 ①6月28日(木) ②9月4日(火)
③12月5日(水)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

平成30年度監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 7/12、9/21 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。
日程 7月12日(木)、9月21日(金)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会講室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習 平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》 8/10・1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法で、伝統構法の本造建築物の耐震診断等に用いられます。
日程 ①8月10日(金) ②1月29日(火)
時間 9:30～16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

第3回国際茶楼 インド・ナウ 悠久のインド～チャンディガール・タージマハル報告会 6/15 CPD2単位(予定)

今年2月に実施した建築士会海外研修旅行の報告会を行います。ルンド・ラジャナム氏を迎えインド人の生活や考え方を聞きながら、インドの国全体像を浮かび上がらせたいと考えています。スライドショーではタージマハルとアグラ城そしてチャンディガール(政府庁舎群コルビジェの作

品他)の魅力を皆様にお伝えしたいと思います。
※本場?のチャイとお菓子を用意しております。
食べながらゆったりとインドを感じてください。
日時 6月15日(金) 18:00～20:00
会場 大阪府建築士会
定員 40名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
学生・大阪府建築士会新入会員
(2017年度以降入会)無料

建築資材・耐震部材工場見学フクビ化学工業株式会社・福井散策(永平寺) 6/21、6/22 1日参加4単位、2日参加7単位

フクビ化学工業株式の生産工場や、永平寺など福井県内の建築の見学を行います。
日時 6/21(木) 11:00～16:30
6/22(金) 10:00～16:15
会場 フクビ化学工業株式、永平寺、養浩館
定員 40名(定員に達し次第締切)
参加費 Aコース(6/21～22の1泊2日) 30,000円
Bコース(6/21のみ日帰り) 20,000円
Cコース(現地集合) 8,000円

鑑定業務支援分科会第6回セミナー 調査依頼の受け方／報告書の作成ポイント 6/22 CPD2単位(予定)

本会では建築紛争解決や鑑定に必要な専門知識をもつ人材の育成に力を注いでいます。今回は調査や相談を受ける際の注意点、契約の仕方、報告書と意見書の違い、作成のポイントなどについて説明します。
日時 6月22日(金) 18:00～20:00
会場 大阪府建築士会
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
定員 40名(申込み先着順)

若い大工職人がかたる和風建築の話 6/23 CPD2単位(予定)

和風住宅建築についての講習会を開催します。大工職人が何を思って家を造っているのか、実例をご紹介します。
日時 6月23日(土) 18:30～20:30
会場 松原ゆめニティプラザ3階研修室
(近鉄河内松原駅前)
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員1,000円
一般1,500円 学生500円

第62回大阪建築コンクール 受賞者講演&トークセッション 7/6 CPD2単位(予定)

第62回大阪建築コンクール受賞者による講演と審査委員とのトークセッションです。
日時 7月6日(金) 19:00～20:40
会場 大阪工業大学梅田キャンパス
OIT梅田タワー2階 セミナー室203
大阪市北区茶屋町1-45
参加費 無料(申込不要)

動静レポート

会長動静

- 4/25 日本建築積算協会関西支部総会
- 4/27 (仮)近畿ヘリテージ協議会準備会
- 5/14 大阪府収用委員会
- 5/15 総務企画委員会（連合会）
- 5/17 日本建築材料協会総会
全日本不動産協会大阪本部総会
- 5/18 日本建築家協会近畿支部総会
大阪府宅地建物取引業協会総会
- 5/21 在阪建築4団体会長会議
- 5/23 総会、理事会
- 5/24 正副会長会議（連合会）
- 5/25 理事会（連合会）

*連合会：（公社）日本建築士会連合会

運営委員会

平成 30 年一級建築士試験の申込状況

今年の一級建築士試験の、本会窓口における対面受付を、5月14日に締め切りました。大阪におけるインターネット等による申し込みを含めた申込者総数は、学科からの受験申込は2,718名（全国33,591名）、設計製図の受験申込は399名（全国4,835名）でした。申込者数は昨年と比べ、学科では41名減少（全国656名減少）し、設計製図は69名増加（全国550名増加）しました。なお、一級建築士学科試験は7月22日（日）、設計製図試験は10月14日（日）に実施します。

建築表彰委員会

第38回大阪都市景観建築賞の第1回幹事会を実施

本会が事務局を務める第38回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）の、第1回幹事会を本会で開催しました。幹事会は大阪府・市及び本会を含む建築4団体で構成され、募集スケジュール等の運営方針を決めます。座長には本会の中嶋副会長が選出され、まず前回の概要説明や収支報告の後、今年の運営スケジュール、収支予算、審査委員、募集方法等に関する運営方針を確認しました。また、懸案となっている本事業に対する協賛金の減少による収支の改善について、協賛団体の追加募集などの対応につ

いても話し合われました。

大阪まちなみ賞は今年も府民からの推薦を広く募集し、多くの応募が集まるようPRに取り組むこととしました。

研修委員会

大阪府発注建築工事にCPD評価を導入予定

大阪府住宅まちづくり部公共建築室から発注される条件付一般競争入札（実績申告型）において、平成31年度から継続能力開発制度（CPD）による評価が追加される予定です。

入札時の評価点追加の要件は、配置監理技術者が、過去1年間のCPD取得単位数が12単位以上であり、かつ、その内3単位以上が「建設現場の事故防止に関する講習」受講の単位とされます。

建設工事現場では、墜落災害などにより、年間約300人もの尊い命が失われており、「建設工事従事者の安全及び健康の確保の推進に関する法律」が昨年施行されるなど、建設災害の撲滅に向け、官民一体となった取組が必要です。

本会は大阪府と連携し、CPD単位を取得できる建設工事の安全・健康確保講習会を研修分科会で企画しており、9月から12月の毎月1回、合計4回シリーズで実施する予定です。

講習会では、建設業労働災害防止協会の安全管理士及び建設会社の安全担当者を講師にお招きし、建設現場の安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組方法などについて、実務に役立つ講習を行う予定です。ぜひ受講下さい。

研修委員会

平成30年度建築士定期講習の受講申込状況

定期講習は、建築士事務所に所属するすべての建築士は、3年以内ごとの受講が建築士法で義務付けられています。建築技術教育普及センターの主催で本会が運営を担当する、本年度第1回目の建築士定期講習を6月7日に開催する予定ですが、300名が受講できる大阪国際会議場の会場は早期に満席となりました。

本会の定期講習の特徴は、ビデオを使用せず、行政担当官や民間の経験豊富な実務者が講師を担当します。

例年好評につき、受講を希望される全員の方が受講できるよう、本年度は11回開催し、約2,000名に受講いただく予定です。ご希望の日程が満席のため受付できないこともありますので、対象の方はお早めにお申込みください。

社会貢献委員会

ヘリテージ事業に文化庁の補助採択が決定

ヘリテージ部会では、平成25年度から文化庁の補助事業を毎年行っており、今年度の補助額は昨年度より632千円増の、12,347千円と決定しました。

その主な内容は、今年度で6回目となるヘリテージマネージャー育成講座開催、地域の伝統的な建築やまちなみのMAP作成、文化財の活用と保存を学ぶ企画、登録文化財を訪れた人に建物の概要を紹介する説明サインの設置、文化財を活用したイベント開催の他、昨年度事業で設置したWebサイト「大阪文化財ナビ」に、外国人のための英語による解説の追加など多岐に渡ります。

今後、本会ヘリテージ部会及び大阪府ヘリテージマネージャー協議会が会合を重ね、補助事業実施の具体的な企画立案を進めます。

社会貢献委員会

平成30年度の地域貢献活動助成団体を決定

今年度の地域貢献活動助成は、「みんなのDIY講座：大工塾・左官塾」の事業を実施する「河内いえ・まち再生会議」の1団体と決定しました。すでに2年の実績がある本申請事業は、大工・左官などの伝統技術を地域住民がDIY講座で学び、住宅への愛着を持って住民自らが住まいを改善することは、空き家発生の抑制にも効果があり、まちの再生につながる有意義な取り組みであると評価しました。当事業には15万円の補助を行い、広く参加者を募り展開することを期待するものです。

平成 30 年度定時総会及び関連行事の報告

開催日：平成 30 年 5 月 23 日（水） 会場：KKR ホテル大阪

平成 30 年度定時総会は、総正会員数 2,512 名に対して 1/3 以上となる 921 名（うち委任状 808 名）の出席で定款第 17 条に照らして成立しました。



所信を述べる岡本会長

会長は、建築士育成はもとより行政や弁護士会と連携した公益活動の推進や、宅建業・不動産業の他業種と協働した事業の拡大を図る方針等を表明されました。

○第 1 号議案（29 年度事業報告）

本会が 29 年度実施した、公益目的事業、収益事業、その他事業について、運営・研修・事業・建築表彰・建築情報・社会貢献の 6 つの常設委員会別に活動内容を報告し、承認されました。

○第 2 号議案（29 年度財務諸表等）

29 年度の収支決算は、当初予算に対して約 800 万円の黒字になりました。

会員数の減少が当初想定の 100 名から 32 名に縮小したことや登録閲覧事務及び建築士試験事業、委員会事業収支が堅調に推移し、特に既存住宅状況調査技術者講習の実施による増収が大きな要因です。

当期一般正味財産増減額は 8,028,005 円で、一般正味財産期首残高 34,938,917 円から同期末残高を 42,966,922 円と報告して承認されました。

さらに、公益法人法に定められた公益目的事業の 3 区分の各収支差引額が全てマイナスであり、公益目的事業の支出計が全支出計の 1/2 以上であること、収益事業額の 50% を公益目的事業に振替えても増減額がマイナスであることの 3 点全てを満足したことを報告しました。

○第 3 号議案（30 年度役員選任）

2 年間の任期が満了した役員に代わる「理事及び監事候補者選考委員会」から推薦された理事候補者 21 名、監事候補者 1 名が承認されました。

これにより、30 年度は理事 45 名、監事 2 名の役員構成となりました。

■式典・表彰式

大阪府知事に代わり山下久佳大阪府住宅まちづくり部長、大阪市長に代わり高橋徹大阪市都市計画局長に、それぞれご祝辞を賜りました。

名誉会員称号、永年会員表彰、CPD 制度表彰、第 62 回大阪建築コンクール、第 10 回建築人賞の表彰式を執り行いました。

■記念講演会

坂茂氏（坂茂建築設計）をお迎えして「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」をテーマにご講演を頂きました。

BIM セミナー（受注力 UP! BIM 設計による木造戸建て住宅）を終えて

日程：平成 30 年 4 月 12 日（木） 会場：大阪府建築士会会議室 参加者：66 名

巽 泰滋（賛助会員分科会理事）



昨年に次ぐシリーズ第 2 弾の企画で、本年度は賛助会員分科会と青年分科会、研修委員会の合同で建築士会東会議室で約 60 人を超える参加者で行われました。今回のセミナーでは、設計事務所所長の栗林先生に BIM 設計の利便性について講演して頂きました。

栗林先生とパートナーの左近充先生は、ある企画住宅開発への協力要請をきっかけに、BIM 設計を積極的に取り入れられました。その結果、設計・プレゼン・見積・契約等今までおよそ 3 週間かかっていた仕事が、わずか 3 日でできあがり、成約率を飛躍的に上げられた体験談を伺いました。又プレゼンの操作の解説では、BIM の特性を詳しく解説して頂きました。それによると、柱、壁、建具などの部品一つ一つが、人間と同じ様に、寸法・

仕上げ・構造の属性（性格）を持っていて、それにより、平面図で建具をマウスで押さえるとその建具の属性（性格）までもが表現され、なおかつ平面図・立面図・パース・仕上げ表・見積書などに連動していることから、変更等にも簡単に対応ができるのです。図面上で、縦横自由に切った断面をいとも簡単に表現できることや、自分自身が描いた図面の中に入ってゆく体験（VR）ができる事等、その機能の素晴らしさに驚きの声が上がっていました。

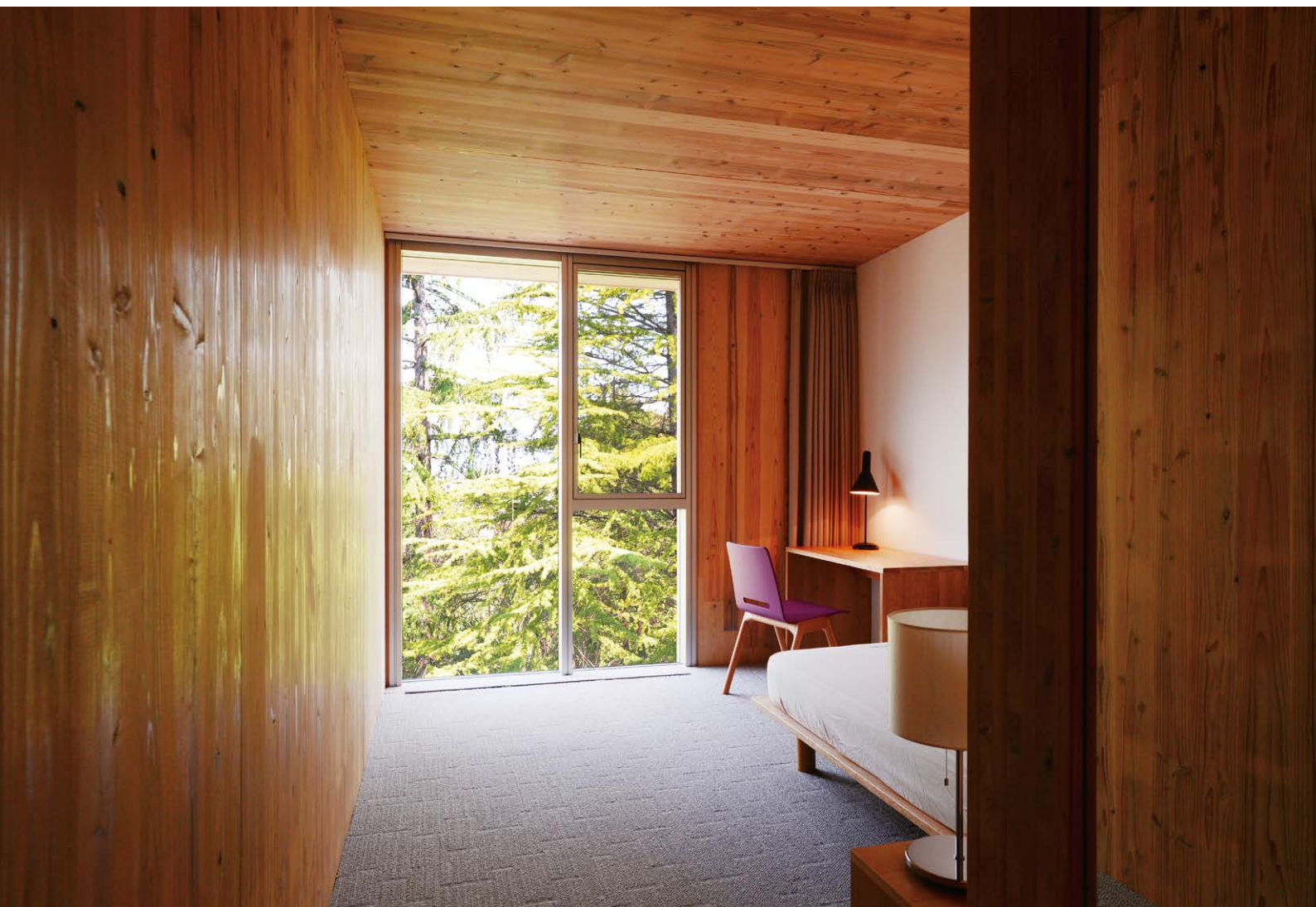
BIM には、これからの設計、建築業務を一変させる程の機能があることを実感しました。

しかし、このように素晴らしい機能を持った BIM ですが、使いこなすにはかなりの時間と労力が必要です。そのため、

BIM 設計には専用のオペレーターの存在が不可欠だと感じました。

若い方や建築知識の少ない方でも、BIM 設計から建築を学ぶ事もできるということです。積極的に BIM を学んで頂き、これを機会に、皆様が IT 補助金などを使って BIM 設計の導入と活用で、これからの工務店・設計事務所の経営で受注力 UP に結びつけて頂きたいと思います。





緑豊かな森に建つ研修所の増築計画。周辺環境と調和する建築を目指し木造（CLT パネル工法）を採用した。架構や接合方法を工夫し、垂壁・腰壁をなくすことで床・壁パネルのシンプルな積層構成によるフラットスラブを実現。四周に跳ね出した床パネルにより、羽目板張りの木外壁を雨から保護し、開口への日射を緩和するとともに、陰影ある表情をつくった。また、床から天井までの大開口を設け、豊かな森と一体になる内部空間とした。二重床に設備を集約することで天井設備を最小化し、二重床・二重壁を利用して接合金物があらわれないよう工夫することで木の素材そのものに包まれる、ミニマルな計画とした。（寺村雄機）

所在地：兵庫県川西市
用途：研修所
竣工：2018.02
構造規模：木造（一部RC-S）
地上3階地下1階
敷地面積：79,889.76㎡
建築面積：328.90㎡
延床面積：1,209.20㎡
写真：伊藤彰
/aifoto.jp
寺村雄機（内観）



保育室及びプレイホールを主用途とする別館の建替工事で、職員室や給食室、グラウンドなどは本館を利用する。建物中央に中庭を配することにより、保育室やホールへの自然採光や通風を得るとともに、近隣住居への騒音に配慮した。外部廊下も遊びのスペースとして広く確保し、3階ではデッキテラスや砂場、夏には可動プールを設け、ターフやテントにより外部での保育に配慮している。ロボットの顔のような金属板のプレイホール、家形や山形のコンクリートの塀、楕円形の土壁の階段塔など幼児たちの創造力を掻き立てる造形や空間を組み合わせた。プレイホール中央には木製の大型遊具の設置が予定されている。

所在地：兵庫県尼崎市
用途：幼稚園型認定こども園
竣工：2018.03
構造規模：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造 3階
敷地面積：875.18㎡
建築面積：444.04㎡
延床面積：968.52㎡
写真：岡田大次郎



敷地は枚方市光善寺駅から北東の高台にあり、敷地内には母屋と離れがありました。今回、御両親が離れに移り、母屋の跡地に子世帯の新居を作る計画でした。高台からの眺望や敷地内の豊かな緑を、この家族だけでなく街の人々と共有すること、2世帯の距離感を再構築することをテーマとしました。建物をリビングやダイニングが収まる南北に大きなボリュームを中心とし、その東西に寝室やユーティリティなどの小さな4つのボリュームが付加される平面構成としました。建物の分節化により外部空間が凸凹し、遠近双方の距離感で街と繋がり、また、各ボリュームの屋根の向きを互い違いとし、住宅地にふさわしいスケール感を得ています。新旧の建屋の対比と調和の中で、街と人との新たな景色が育まれる事を楽しみにしています。

所在地：大阪府枚方市
用途：専用住宅
竣工：2018.04
構造規模：木造平屋建
敷地面積：355.45㎡
建築面積：117.59㎡
延床面積：116.76㎡
写真：雷田英次

前回に続き、香川県建築課営繕技師として活躍した山本忠司の仕事を紹介したい。二〇一八年四月二一日、山本忠司展の開催に合わせて、記念シンポジウムを催した。ゲストにお招きしたのは、彫刻家イサム・ノグチ（一九〇四〜八八年）の共同者として活動を続けて来られた石彫家の和泉正敏さん（一九三八年〜）である。和泉さんは、高松市牟礼町の代々続く石屋の名家に生まれ、一九五三年に石の仕事を始める。そして、「石のアトリエ」を設立した一九六四年に、金子正則知事の紹介で、イサム・ノグチと出会う。以来、ノグチの亡くなるまでの二五年間、彼の石彫制作に携わった。

また、彼の没後には、イサム・ノグチ庭園美術館の建設に協力し、現在は、イサム・ノグチ日本財団理事長を務めながら、谷口吉生など現代建築家との共同やご自身の彫刻作品の制作を続けている。その和泉さんの自宅として山本忠司の設計で建てられたのが、今回紹介するイズミ家である。

実は、ノグチの仕事場兼住宅として、このイズミ家に先行する形で、一九六九年に手前の敷地に建てられたのが、通称「イサム家」と名づけられたイサム・ノグチ邸だ。イサム家は、香川県丸亀市にあった江戸末期に建てられた町屋風の武家屋敷の入江邸を解体して移築したもので、山本が設計を手がけ、ノグチとのやり取りの調整役として尽力したのが和泉さんだった。ノグチは、山本に連れられて移築前の現地を訪れた際、崩れかけた武家屋敷の前に、化け物屋敷みたいだと尻込みしたという。だが、日本建築学会四国支部の民家研究委員会が四国各地の民家を調査して歩いていた山本は、自信を持って移築を行い、結果的にノグチはとても気に入って暮らし始めたのである。

また、この民家の移築をノグチと共同した経験が、山本に新たな刺激を与えたに違いない。移築後にここを訪れた大高正人との対談の中で、山本は、この民家への手の加え方について、次のように語っている。

「民家というものについては、考証的・歴史的に考えているかたが多いわけですが、私はあくまでもアーキテクトとしての民家のとらえかたをしたい。いろいろな角度からみて、構造にしてもプランにしても、

の背景が非常に浅い、と語り、それに較べて、この民家には中世以降の技術伝承が蓄積されており、その迫力には相当なものとあると力説していた。山本は、建築家という創造者としての視点から、歴史的蓄積を備えた民家に学びつつ、現代建築への洞察を深めていったのだ。そして、この移築に続いて、山本が設計を手がけたのが、イズミ家であり、翌一九七三年に竣工する代表作となる瀬戸内海歴史民俗資料館だった。

興味深いことに、歴史民俗資料館の設計に感動し、大きな手がかりを得て帰国する。そして、資料館の設計を根本からやり直し、地形に沿って展示室棟が群のように連なる造形と外壁に石を積み方針を取る。同時に、イズミ家の作りながら考える設計プロセスが間違いなかったことを確信する。竣工時の文章（つくられた過程）『建築文化』一九七二年九月号に、山本は、「アーメダバッドで見かけた架構」にヒントを得たこと、インド経営大学の「そこにある土を焼いてれんがを作り、サリールを着た娘さんは頭に乘せて運び、男は型作り、あるいは積重ねる」「すばらしいテクニクの伝統」によって、「作っていく過程」に「作る喜びがいっぱいであつた」ことを記している。そして、イサム家の「古典的格調」を持つ「静的なたたずまい」とは対照的に、イズミ家では、「動的、活動的な空間」をめざそうとする。

記憶の建築

松隈 洋

イズミ家 1972 年
石の住宅に込められたもの



東側外観 石積の壁と木造の2階



居間・応接室内観 軽快な鉄骨の屋根

何があるの良さだろうかということを考えたいのです。（中略）古いものは古いものとしての良さがあるのですけれども、ただそれだけではしょうがない。そこに手を加えて現代に生かしていくことがひとつあると思うのです。（『デザイン原点の発見』『建築文化』一九七〇年十月号）

山本は、その一方で、同じ対談の中で、コンクリートや鉄など現代建築の技術の歴史は一〇〇年足らずであり、技術的な修練

が行き詰まった一九七一年、山本は、ノグチの誘いを受けて、遠くインドへと旅立ち、建設中だったルイス・カーンの設計したインド経営大学（一九七五年）の建設現場を訪れている。この旅行に同行した和泉さんの話によれば、彼らを案内したのは、この建設にも協力し、二〇一八年、「建築界のノーベル賞」とも言われるプリツカー賞を受賞したインド人建築家のバルクシュナ・ドーシ（一九二七年〜）だったという。現場を見た山本は、その建設のプロセス

が、その良さをどうにかしようかということを考えたいのです。（中略）古いものは古いものとしての良さがあるのですけれども、ただそれだけではしょうがない。そこに手を加えて現代に生かしていくことがひとつあると思うのです。（『デザイン原点の発見』『建築文化』一九七〇年十月号）

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

2020年に省エネ基準が適合義務化されることもあり、建築士の温熱環境設計に対する力量が問われています。今回は豊田保之さんに伝統的な材料である土壁を例にして省エネ設計手法についてご紹介いただきました。

伝統土壁と省エネの共存は可能なのか？

豊田 保之（とよだ やすし）

1974年京都生まれ。トヨタヤスシ建築設計事務所主宰。京都造形芸術大学大学院非常勤講師。岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師。一般社団法人住宅医協会理事。代々続く左官職人の家に生まれた経歴から、土壁や漆喰など左官職を生かした家づくりを行っている。受賞歴に、第5回サステナブル住宅賞 国土交通大臣賞、第1回京環境配慮建築物優秀賞など。

もしも、伏見城の建築に携わった凄腕の職人集団が、今の省エネ時代に生きていたら何を考え行動・実践したのだろうか？これまで通りの家がつくれなくなるからそんな決まりをつくるなと声たかだかに叫んだのだろうか？それとも、時代に向き合い、どんな苦難も新しい技術として生まれ変わらせたのだろうか？四〇〇年以上も前の職人の気持ちは今となつてはわからないが、昨今は、どちらかというと後者のほうが少数派だと感じる。零か百に偏らないようにバランスを保ったまま次の世代にバトンを渡すために、省エネと伝統土壁の共存について少し考えてみる。（写真1）

省エネ義務化の対応統計結果は？

二〇二〇年に小規模な住宅にも省エネルギー基準の適合義務化（以下、省エネ義務化）が迫っていることもあり、二〇一七年十二月から二〇一八年三月にかけて、設計者等の省エネ計算等の対応の現状について、興味深い実態調査データが、業界団体から発表された。この実態調査の詳細は、平成三〇年三月三〇日に、「住宅・建築物のエネルギー消費性能の実態等に関する研究会」とりまとめた公表について」として報道発表がなされているので参照してほしい。

そのデータを見ると、（公社）日本建築士会連合会発表資料には、住宅における外皮性能と一次エネルギー消費量（以下、一次エネ消費量）の計算対応について、問題なく対応できるとした建築士は約五十％とあり、対応することが難しいとの回答が約二十％だったようだ。（図1）また、対応方法としては、自社で対応できるとしたのは約四五％、専門事務所へ委託が約二十％、建材メーカーやプレ

カット工場等が支援してくれるが約八％との結果だ。（図2）

（一社）建築士事務所協会連合会発表資料では、「省エネ計算を詳しく知っている事務所は三割程度。また、義務化への対策を考えていない事務所は過半」とあり、設計事務所の対応が遅れていること、特に小規模な設計事務所では省エネに関心がない者も半数程度いると指摘されている。

現段階で、約三〜五割の建築士が対応できているようだが、これが多いのか少ないのかよくわからない。ただ、省エネ義務化になることで、外皮性能と一次エネ消費量の計算が必要に迫られるため、対応率の上昇は時間の問題なのかもしれない。一方で、省エネ義務化とならなければ、計算をしている建築士と、関心がない建築士の設計する家の温湿感の差は、あきらかにかわるため、暑い寒いといったトラブルは、今後、増えると思われる。

気候風土適応住宅の認定へ

省エネ義務化になると、外皮性能と一次エネ消費量の基準値をそれぞれクリアする必要があるが、気候風土適応住宅の認定を受けると、外皮性能の基準はクリアできなくてもよく、一次エネ消費量の基準は緩和できる。（図3）

ただ、注意しないといけないのは、認定を受ける場合でも、外皮性能と一次エネ消費量は通常のルートと同様に計算しなければいけないため、何もせず楽をしてクリアできるわけではない。かつ、所管行政庁が決める策定ルールに沿った住宅でないといけないため、地域によって要求仕様が変わり、申請手続きが複雑になる可能性が高い。

住宅においても、省エネ基準である外皮性能や一次消費エネルギーが求められることについて、ご自分のお仕事においてどう対応できますか？

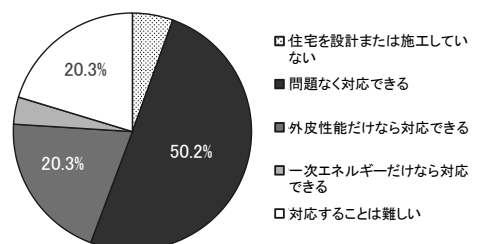


図1 省エネ計算等の対応可否率。約2割の建築士が対応することは難しいと回答。
出典：国土交通省 平成30年3月30日「住宅・建築物のエネルギー消費性能の実態等に関する研究会」とりまとめた公表について」

省エネ法での省エネ基準への対応を、どのようにする予定ですか？

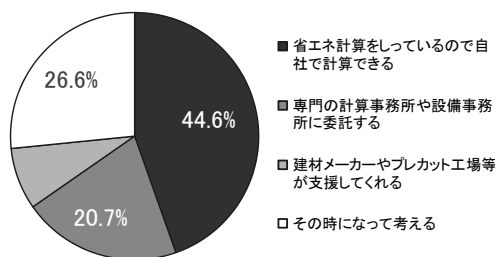


図2 省エネ計算等の対応方法。自社で計算できる会社は、まだ半数も満たない。
出典：国土交通省 平成30年3月30日「住宅・建築物のエネルギー消費性能の実態等に関する研究会」とりまとめた公表について」

土壁の断熱手法と性能の現状

省エネ義務化により、外皮性能の向上が求められる中、一番のしわ寄せをくうのは、土壁といっても過言ではない。特に、内部も外部も土壁でできている真壁造の場合、断熱材を充填するスペースがなく、外壁の断熱性能は向上しづら。い。（写真2）柱幅を二二〇mmとしチリ際まで目一杯土をつけたとしても、熱貫流率は三・〇W/mK程度であり、基準値の〇・



写真6 エネマネハウス2017
京都大学チーム紹介HP
https://www.enemanehouse.jp/college/kyoto/



写真4 改修版・自立循環型住宅への設計ガイドライン。講習を受けないとテキストはもらえない。

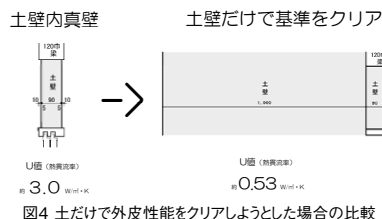


図4 土壁だけで外皮性能をクリアしようとした場合の比較

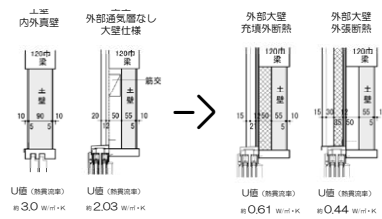


図5 土壁に付加断熱をした場合の性能値比較



写真2 竹小舞土壁で新築する家は、京都でも数件しかないと言われている。



写真3 木小舞土壁に繊維系断熱材を充填する様子



写真3 気候風土適応住宅の認定を受ける場合は、専用のエネルギー消費性能計算プログラム（気候風土適応住宅版）で計算を行う。
出典:建築研究所 建築物のエネルギー消費性能に関する技術情報より



写真1 土壁に使う荒土。今は、電話一本で材料を運んできてくれるが、将来はどうなるか不透明。

五三W/m²Kに到達できそうにない。もし、土壁だけで、外皮性能基準をクリアしようと思うと、およそ一一五〇mmの厚みにしないといけず非現実的である。（図4）
古建築は、内外真壁でできた土壁が多く見受けられるため、もし、同仕様の住宅をつくりたい場合は、前述の気候風土適応住宅の認定を受ける方向で進めるしかないだろう。

土壁背面に断熱材を充填してもよいなら、土壁は、地域性や職人の考えによって、片面が大壁でも良い場合もある。特に雨風が強い地域や雪が積もる地域などは、片面を大壁にすることがあるため、断熱材の充填・外張りが容易に行え、外部から見えないように隠して外皮性能を向上できる。土壁の外部側にラスモルタルが塗られている住宅は、熱貫流率は二・〇三W/m²K程度であるが、土壁背面のチリ奥行きを最大限確保し繊維系の断熱材を充填することで、熱貫流率〇・六一W/m²K程度まで性能を向上することができる。（図5）断熱材は、熱伝導率〇・四（W/m・K）のものでこの値になるため、もし性能が高い断熱材を使えば、外壁の基準値をクリアできる。また、発泡系の断熱材でもよければ、外張り断熱とすることで、熱貫流率〇・四四W/m²K程度まで向上することができ、こちらが基準値をクリアできる。

また、土壁の下地を木小舞とし、片面だけ土を塗る手法を使えば、断熱材の厚みも厚くできる上、土壁のコストも削減できる。（写真3）断熱材を充填することに対して抵抗がないのであれば、こういった手法を取ることで伝統土壁を進化させることができ、気候風土適応住宅の認定を受けずとも省エネ基準をクリアできる。

既存土壁の外皮性能向上手法

土壁でできた古民家や既存町家等を省エネ基準に適合させるのは一番のハードルだ。省エネ義務化は、今の所、新築のみと言われているが、既存住宅に目を向けられるのも時間の問題だろう。前述している土壁に断熱付加をする手法や気候風土適応住宅の認定を受ける方法は今後使えるとして、今研究されている区画断熱という手法が省エネと伝統土壁の共存の可能性を秘める。

区画して断熱する手法へ

区画断熱する手法は、二〇一七年末に大阪の梅北で開催されたエネマネハウス二〇一七・京都大学チーム「まちや+こあ」が先進的な事例である。

この「まちや+こあ」は、町家の装いを残しつつ、建物中央部のコアのみを区画し高断熱化する提案である。（図6）この手法を取ることで、ファサードの土壁は、既存の土壁をそのまま残すことができ、かつ、コア内での省エネルギー対策が可能である。区画された白いコア内部の南北の壁は、土壁外断熱とし高断熱化する。東西の壁（長屋なので隣家の想定）は、既存土壁の上から真空断熱材を貼り付けることで、真壁のまま断熱補強が可能だ。これら区画断熱の手法は、町家の意匠を保存できるため、今後、幅広く活用されると思われる。（写真5）

区画断熱Q*（キユースター）という評価

二〇一八年三月に、国土交通省国土技術政策総合研究所および国立研究開発法人建築研究所から改修版・自立循環型住宅

への設計ガイドライン（以下、改修版）が発刊された。（写真4）これまで外皮性能は、建物全体でしか評価ができない計算であったが、改修版にQ*（キユースター）という区画断熱の評価が新しく追加された。このQ*は、今の所、省エネ基準には適用できないが、エネマネハウス「まちや+こあ」のように区画断熱した範囲のみで外皮性能と熱損失量を評価できるため、既存住宅の省エネ評価として今後活用できると思われる。

まとめ

暑さ寒さは、毎年必ず体感する。今後、多くの家の断熱性能が向上していく中、関心がない建築士が造る家の未来があるのかないのかは想像がたやすい。建築主は、一生に一度の家をつくるために、ありとあらゆるところから情報を集め建築士を見つけだす。我々は、それに答えるべき情報を発信する必要があるだろう。一方で、伝統的に受け継がれてきたものを、現代の知見で生まれ変わらせることができれば伝統土壁も維持・継続できる。凄腕の職人集団が、今の省エネ時代に生きていたら、後世に残る偉業を成し遂げたと信じて今後も活動を続けたい。



写真5 大阪梅北に実物大のモデルが1ヶ月程度展示された。

まったく異なる与条件と規模ではあったが、いずれも現在の建築界で共有したい方法と価値を有する点で、高く評価された建築である。「豊中市立文化芸術センター」は、地元の文化への理解度の高さもあるのだろう、市側の周到な企画に基づいた建築計画から、独自の構法の開発や素材の追求に至るまで、正道と言える説得力のある完成度が実現されていた。隣に建つ既存の文化施設との関係性も良く練られており、その控え目なたたずまいと安定感は特筆に値する。10年前からそこにあり、10年後も変わらずに市民に愛されているだろうと思えた。また、「てんしば」は、厳しい予算と工期の中で、事業に求められた都市に対して閉じていた公共空間を開くことに成功しており、小さな建築ながら、ランドスケープ的な都市への大きな提案を堅実に果たしていることが評価された。ただ、現地を訪れて残念に思ったのは、竣工後に別の設計者によって増築や新築が行なわれ、中央の芝生広場の使い方も、設計者が思い描いた、誰のものでもない都市の広場の性格を損ねている印象を受けたことである。竣工当初の良さが保たれ、健全な形で活き活きと使われるために何が必要なのか。発注者と管理者、ひいては市民の公共空間への意識の向上こそが求められているのではないと思う。そして、渡辺節賞奨励賞に選ばれた「西陣産業創

造會館」は、国の重要文化財の旧・京都中央電話局西陣分局舎（1921年）を耐震改修したものだが、一担当者としての立場を超えて、個人的な時間を費やしてこの建築の歴史を研究調査し、それを活かす形での改修を行った設計者としての取り組みに共感が集まった。大組織の中で、このような仕事に挑む若い設計者が出てきたこと自体、時代の転換を象徴している。今後、既存建物の改修という地道な試みがさらに広がり、歴史と時間と対話することの意義が若い世代に共有されていってほしいと思う。

続いて、現地審査で受賞に至らなかった作品について、コメントを記しておきたい。府知事賞候補の「竹谷商事新社屋」は、基礎扱いの1階部分の取り扱いと事務室の採光や断熱などに難が指摘され、「Zepp 大阪ベイサイト」は、ライブハウスとして求められる厳しい性能に応える機能の追求は注目されたものの、周辺環境への開き方や開演待ちの空間の乏しさが弱点となった。「宝ホールディングス歴史記念館」と「大光電機株式会社技術研究所」は、記念館と研究所という、いずれも一般には開放されていない施設として、それぞれ求められた要求に的確に応えた良質で洗練された建築ではあったが、周囲に対して閉鎖的な外観の印象と、使用者にとっても外部との関係性を味わいにくい空間構成が惜しまれた。「近畿

大学東大阪キャンパス整備計画」は、新しいキャンパス像を求める大学側の希望を忠実にながめた斬新なデザインが眼を引いたが、さまざまなデザインコードの寄せ集めの印象が強く、設計者の理想とする大学キャンパス像とは何か、についての核心となる設計思想が読み取れない点が残念に思えた。渡辺節賞候補の「ある画家のアトリエ」は、施主の求めに丁寧に応じた空間構成とディテールの完成度が注目されたが、渡辺節賞に期待される建築に向き合う初心の緊張感を感じ取ることができなかった。「JURAKU RO」は、厳しいコストの中で工夫しながら良質な空間構成を実現している一方で、範を得たという京町屋の良さである露地や坪庭による光と風の抜けが実現されていないことや周囲に対して突出したスケールであることに異論が出された。

最初に触れたように、さまざまな条件や規模を持つ多様な応募作品を審査する中で、審査員一同がその建築に発見したいと強く願ったのは、施主との共同作業の先に立ち現れる、こんな空間が身近な場所に増えていったら居心地の良い街になる、と誰もが思える普遍性と公共性を持つ風景に対する構築への意志だったと思う。この歴史ある大阪建築コンクールをめぐる議論が、これからもそのことへ向けて開かれていくことを願っている。

審査風景



第 62 回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会 後援／大阪府

■大阪府知事賞部門	大阪府知事賞	豊中市立文化芸術センター て ん し ば	江副敏史・多喜 茂・萩森 薫・宮本順平 松田知也・宮島照久・鈴木雅史・西村 敬
■渡辺節賞部門	渡辺節賞 奨励賞	該当作品なし 西陣産業創造會館（旧京都中央電話局西陣分局舎）	柳樂和哉

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2013年1月1日から2017年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者
完了検査済証発行日現在 39 歳以下

審査委員会

委員長 松隈 洋（京都工芸繊維大学教授）

委員 鈴木修一（京都大学名誉教授）

※50音順
梶田洋子（桃李舎主宰）

松岡 聡（近畿大学教授）

松田浩三（大阪府住宅まちづくり部公共建築室室長）

審査

応募数 大阪府知事賞部門 34 点

渡辺節賞部門 16 点

審査委員会 4 回

●第 1 次審査

2 月 13 日 書類・図面、写真によって、大阪府知事賞部門 7 点、渡辺節賞部門 3 点を選考

●第 2 次審査

2 月 23 日、3 月 19 日 第 1 次審査通過作品について現地審査を 2 日間実施

●最終審査

3 月 20 日 第 2 次審査日程終了後に実施
大阪府知事賞部門：大阪府知事賞 2 点、
渡辺節賞部門：奨励賞 1 点を選出

渡辺節賞は該当なし

表彰式

日にち 平成 30 年 5 月 23 日（水）

本会定時総会式典席上

会 場 KKR 大阪

審査経過並びに総評



審査委員長
松隈 洋

長い歴史を誇る大阪建築コンクールでは、これまでも何度か審査委員を務めた経験はあった。けれども審査委員長ははじめての経験であり、他の委員とはすべて初対面である。緊張しながら審査に臨むことになった。でも杞憂だった。事務局のサポートもあって、活発な議論が交わされ、評価軸をめぐっても、自然な中で大切にしようと思ったのは、大阪府

知事と渡辺節の名前を冠した賞の意味を再確認することである。大阪府知事賞は、誰もが共有できる公共的で普遍的方法と価値をつくり出していること、渡辺節賞は、新人賞の意味合いも強い賞の性格から言っても、建築家の出発点となる原石のような硬さと色あせない若々しさが求められること。そのような視点が議論を通して共有されていったと思う。逆に言えば、それは、今の時代において建築の何を評価し、何を選ぶのか。審査員の見識そのものが問われる作業でもあった。

今回は知事賞部門に 34 点、渡辺節賞に 16 点の応募があり、最初に応募書類による一次審査を行った。十分な時間をかけて各自で応募書類を見て回った後、それぞれの判断により、現地審査に推す作品の投票を行った。そして、集計結果を見ながら、得票を得た一つ一つの作品

の何を評価したのか、について各委員が意見を出し合い、評価軸を見定めつつ、最後は投票ではなく、全員の合議により現地審査の対象となる建築を選定した。

一次審査の結果、府知事賞 7 点、渡辺節賞 3 点が現地審査の対象となり、2 日間にわたって全 10 作品を巡った。そして、2 回目の現地審査の翌日に最終審査会に臨んだ。そこでは、巡った順に、書類審査時点との印象の違いも含めて、現地で立地条件や建物の在り方を実見し、設計者からの説明を受けた上での最終的な評価について、各自の意見を交わしながら、最終候補の絞り込みを行った。この際、一次審査と同じく、投票ではなく、議論を尽くすことを心がけ、最後は、やはり合議により、全員一致で受賞作品を決定した。

府知事賞に選ばれた二つの作品は、

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 てんしば

設計者 松田知也・宮島照久・鈴木雅史・西村 敬（株式会社竹中工務店）



建築位置／大阪市天王寺区
建物用途／公園・商業・
スポーツ施設等
建築主／近鉄不動産株式会社
施工者／株式会社竹中工務店
竣工年月／2015年11月

構造／W造
階数／地上2階
敷地面積／28,534㎡
建築面積／2,604㎡
延床面積／2,527㎡

撮影 古川泰造

〈審査講評〉プロジェクトの成功の要因は木造の選択にある。計画初期は鉄骨案だった。地下の既存躯体に配慮した軽量化と工期短縮を目的に変更したというが、芝生との調和、周辺の超高層との対比からも木造が正解だ。架構は流通材の材長6095mmを最大に生かしたシンプルな計画で、あらわしの木のリズムが美しい。大阪人としては「天王寺」が再整備によって洗練され過ぎることを心配していたので、おおらかな公園ができて嬉しい。ネーミングもいい。（審査委員 樹田洋子）

〈審査講評〉天王寺公園の一角を一般開放し、駅周辺の賑いを創出するプロジェクトの中で、公園の入口から芝生広場に至るアプローチ部分の両側に並ぶ建築群として整備されたもの。個々の建物は華美に走らず、コストも抑えられシンプルな造りで統一。木造だが窓面が大きくとられ、明るい雰囲気で一帯の風景にも馴染んでいる。また、この地区のイメージの一新と集客力の向上に大きく貢献している建物でもあることから高く評価された。（審査委員 松田浩三）



松田知也
1965年8月生まれ
1985年4月
早稲田大学理工学部
建築学科入学
1989年3月
早稲田大学理工学部
建築学科卒業

1989年4月 早稲田大学大学院理工学研究科
建設工学入学
1991年3月 早稲田大学大学院理工学研究科
建設工学修了
1991年3月 株式会社竹中工務店入社 現在に至る
[主な建築作品と受賞歴]
2005年 メディテラス
2008年 阪急西宮ガーデンズ
2014年 あべのハルカス（第56回BCS賞）
2016年 てんしば（天王寺公園エントランスエリア）
〈グッドデザイン賞金賞、日本照明賞〉
2016年 枚方T-SITE（日本建築士連合会賞優秀賞）



宮島照久
1968年1月生まれ
1993年3月
名古屋工業大学大学院
社会開発工学科修了
2006年6月
ハーバード大学大学院
GSD修了

1993年4月 株式会社竹中工務店入社 現在に至る
[主な建築作品と受賞歴]
1996年 神戸改革派神学校（第39回BCS賞）
2009年 トヨタカラー新大阪本社（大阪建築コンクール特別賞）
2010年 台湾高雄市国際クルーズ船ターミナル国際設計コンペ（3位入選）
2014年 あべのハルカス（第56回BCS賞）
2016年 てんしば（天王寺公園エントランスエリア）
〈グッドデザイン賞金賞〉
2016年 枚方T-SITE（日本建築士連合会賞優秀賞）



鈴木雅史
1978年5月生まれ
1997年4月
早稲田大学理工学部
建築学科入学
2001年3月
早稲田大学理工学部
建築学科卒業

2003年3月 早稲田大学大学院理工学研究科
建設工学専攻修了
2003年4月 株式会社竹中工務店入社 現在に至る
[主な建築作品と受賞歴]
2008年 Hyundai Motor Manufacturing Czech Project
2014年 あべのハルカス（BCS賞、DSA空間デザイン賞入選、ディスプレイ産業優秀賞）
2016年 萬世電機新本社
2016年 日本建築学会技術部門設計競技（優秀賞）
2016年 てんしば（天王寺公園エントランスエリア）
〈グッドデザイン賞金賞、日本照明賞、大阪都市景観建築賞緑化賞〉



西村 敬
1979年12月生まれ
2000年4月
京都大学工学部建築
学科入学
2004年3月
京都大学工学部建築
学科卒業

2004年4月 京都大学大学院都市環境工学研究科入学
2006年3月 京都大学大学院都市環境工学研究科卒業
2006年4月 株式会社竹中工務店入社 現在に至る
[主な建築作品と受賞歴]
2010年 立命館大学BKCSスポーツ健康科学部棟
2014年 京湯元ハットヤ瑞鳳閣（京環境配慮建築物環境建築賞、DSA賞）
2016年 てんしば（天王寺公園エントランスエリア）
〈グッドデザイン賞金賞、日本照明賞、大阪都市景観建築賞緑化賞〉

審査風景



■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 豊中市立文化芸術センター

設計者 江副敏史・多喜 茂・萩森 薫・宮本順平（株式会社日建設計）



建築位置／大阪府豊中市
建物用途／劇場・展示室・会議室・カフェ
建築主／豊中市
施工者／大林組・河崎組特定建設工事共同企業体
竣工年月／2016年8月
構造／RC・SRC・S・RM造
（鉄筋コンクリート組積造）

階数／地上3階・地下1階・PH1階
敷地面積／16,660.11㎡
建築面積／6,624.67㎡
延床面積／13,425.30㎡

撮影 東出写真事務所

〈審査講評〉環境工学的には大変興味深い材料・施工である。基本はコンクリートであり断熱性や吸湿性は低いはずだが、それなりの暖かさが感じられ結露の跡も見られない。ほぼ直方体に近い室でもエコーは少なく、視覚的にも拡散性があり柔らかな感触を与える。表面の多孔性と凹凸を持たせた壁面構成がこのような好ましい特性を生み出しているのだろうか。物理的な材料・表面特性を把握し、その長所を生かした設計へのさらなる展開を期待したい。

（審査委員 鈴井修一）

〈審査講評〉築35年の既存ホールとスクエアを形成しつつ、スクエアからホワイエへと南北軸をし、エリア全体に新たな流動性を生んでいる。高さを抑えたファサードをニッチでボリューム分節し、一帯があたかも当初から計画されたかのような配置である。既存ホールを意識したであろう天井高6mのピロティと、ホワイエを取り巻く2Fギャラリーの低い天井高が内外で絶妙な親密感を生む。組積モジュールによって空間を構成するという非常に「建築的」な構成手法とは一見相反する、親密感や優しさを感じるの、市が長く取り組んできた文化活動と設計者の優れた手腕の共同作業によるものに違いない。

（審査委員 松岡 聡）



江副敏史
1957年4月生まれ
1980年3月 京都大学工学部建築学科卒業
1980年4月 ㈱日建設計に入社
現在 デザインフェロー、京都大学及び
京都工芸繊維大学非常勤講師

【主な建築作品と受賞歴】

大阪ワールドトレードセンター（大阪府咲洲庁舎）〈日本建築学会作品選奨、日本建築士事務所協会連合会建築賞優秀賞〉／兵庫県立芸術文化センター（日本建築学会作品選奨、BCS賞）／大阪弁護士会館（日本建築学会作品選奨、BCS賞）／福山市中央図書館（まなびの館ローズコム）〈日本建築学会作品選奨、日本建築士会連合会賞優秀賞〉／中之島フェスティバルタワー、中之島フェスティバルタワー・ウエスト（大阪建築コンクール知事賞）



多喜 茂
1966年4月生まれ
1991年3月 金沢工業大学大学院修士
課程修了
1991年4月 ㈱日建設計に入社
現在 デザインスタジオ設計主管

【主な建築作品と受賞歴】

関西外国語大学 中宮キャンパス インターナショナル・コミュニケーションセンター（大阪都市景観建築賞大阪府知事賞）／関西外国語大学 中宮キャンパス7号館（日本建築学会作品選奨）



萩森 薫
1978年7月生まれ
1997年3月 早稲田大学大学院修了
1997年4月 ㈱日建設計に入社
1997年4月 設計部部長
現在 ドキュメントコントロール室員

【主な建築作品と受賞歴】

キャナルテラス堀江（日本建築家協会優秀建築選、大阪都市景観建築賞）／福山市まなびの館ローズコム（日本建築学会作品選奨、日本建築士会連合会建築賞優秀賞、中国建築大賞）／豊中市立文化芸術センター（日本建築士会連合会建築賞優秀賞、日本建築家協会優秀建築選）



宮本順平
1984年10月生まれ
2009年3月 京都造形芸術大学大学院
修了
2009年4月 ㈱日建設計に入社
2009年4月より現在 設計部部長

【主な建築作品と受賞歴】

神戸市須磨区庁舎（日本建築家協会優秀建築選）／豊中市立文化芸術センター（日本建築士会連合会建築賞優秀賞、日本建築家協会優秀建築選）

■渡辺節賞部門 奨励賞 西陣産業創造會館（旧京都中央電話局西陣分局舎）

設計者 柳樂和哉（株式会社NTTファシリティーズ）



建築位置／京都市上京区
建物用途／事務所
（コワーキングスペース）
建築主／西日本電信電話株式会社
Impact hub Kyoto
施工者／株式会社吉原工務店
竣工年月／2016年10月
構造／RC造・一部木造
階数／地上3階
敷地面積／4,584.75㎡
建築面積／2,112.88㎡
延床面積／4,738.60㎡

撮影 エスエス大阪 津田 裕之



柳樂和哉
1985年11月生まれ
2005年4月 京都工芸繊維大学工学部造形工学科入学
2009年3月 京都工芸繊維大学工学部造形工学科卒業
2012年4月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程前期入学
2016年3月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程前期修了
2009年4月 ㈱NTTファシリティーズ入社

現在 ㈱NTTファシリティーズ 関西事業本部 エンジニアリング&コンストラクション事業部

【主な建築作品と受賞歴】

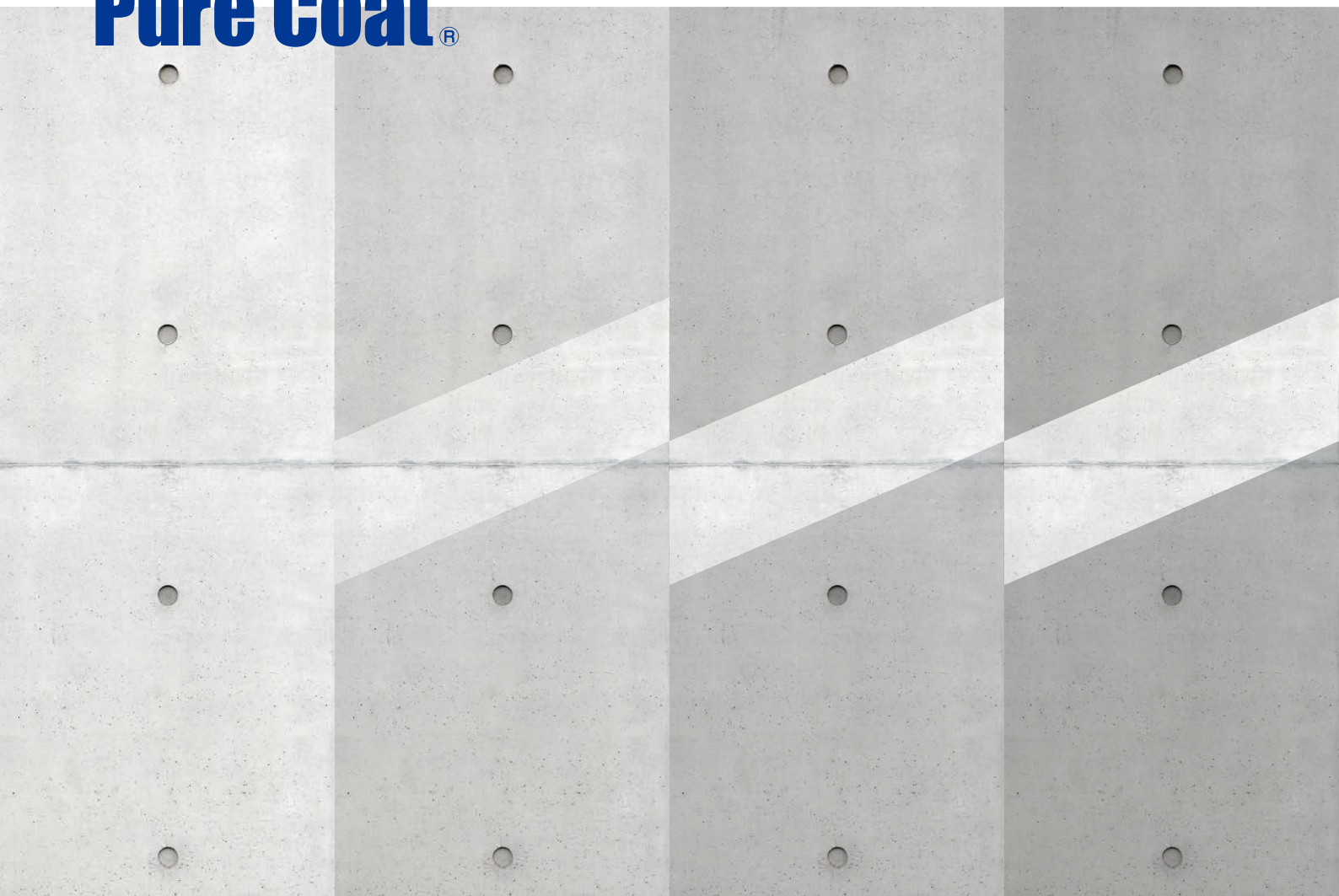
福岡銀行門司支店 〈第7回北九州市都市景観賞佳作〉
南あわじ市役所 〈2015年グッドデザイン賞、DSA2016地域賞、JIA優秀建築選2016、第17回 瓦屋根設計コンクール銀賞〉
京都御前ビル 〈第3回 京環境配慮建築物環境建築賞〉

〈審査講評〉文化財の保存・活用の成否はプロジェクトに関わる「人」で決まるといっていい。専門の知識や技術はもちろん必要だが、大きな原動力になるのは建築への愛だと思う。旧電話局の歴史をこつこつと紐解きながら建築に向き合った真摯な姿勢は「人」を表彰する当賞に値する。賞の性格上、構造の情報が少ないので早急な判断は禁物だが、「耐震改修」という一点に関しては、他の選択肢がないとはいえない。さらなる飛躍に期待して奨励賞とした。（審査委員 樹田洋子）

〈審査講評〉緻密な改修履歴の調査とその解釈を通して、設計者の当該重要文化財に対する愛を強く感じられた。今回の耐震改修に伴う改修が、今後、その履歴の一つの段階として回収され、次の改修へ繋いでいくかのような控えめでシンプルなデザインに好感がもてた。その場に長く建ち続けることで生まれる地域的価値を踏まえつつ、周辺に影響を与える窓辺のデザインや、アプローチや外構のデザインによる「外に開かれた」インテリアデザインが今後望まれる。（審査委員 松岡 聡）

光と水のEconology

Pure Coat®



“見えない”が見えてくる。

ピアレックス・テクノロジーズが世界唯一の技術で光触媒とフッ素樹脂を

組み合わせたコーティング材「ピュアコート®」は、光と水の力で

外壁の汚染を防止・分解し、耐候性を高めます。

その効果はすぐには見えないけれど、時を経るごとに確実に見えてくるのです。

また、コンクリート外壁において、新築時のきれいな状態を維持するのはもちろん、

すでに劣化していても新築同様によみがえらせる施工が可能。

私たちピアレックス・テクノロジーズは、高い技術力で

建物をいつまでも美しく守る最適なソリューションをお届けします。

“メーカー”の枠を超えた高度な施工。

改修▷G-PFシステム® | 打ち放しコンクリート調描画工法光触媒コート仕上げ

老朽化した打ち放しコンクリート外壁を新築同様に再生。長年培った汎用性フッ素樹脂の技術を応用し、これまでほぼ不可能とされてきた技術を実現しました。

新築▷N-RCシステム | フッ素樹脂光触媒クリアー仕上げ

独自の外壁コーティング材「ピュアコート®」を使用し、コンクリートの風合いをそのままに濡れ肌を防止し、その美観を長期間維持します。

※「ピュアコート®」、「G-PFシステム®」は株式会社ピアレックス・テクノロジーズの登録商標です。

株式会社ピアレックス・テクノロジーズ

〔本 社〕〒595-0016 大阪府泉大津市条南町4-14
Tel:0725-22-5361 / Fax:0725-22-5363

〔東京営業所〕〒111-8520 東京都台東区寿3-14-11
蔵前チヨダビル7階
Tel:03-5830-0055 / Fax:03-5830-0056

〔中部営業所〕〒510-8114 三重県三重郡川越町亀崎新田77-568
Tel:059-363-5151

www.pialex.co.jp

 **PIALEX TECHNOLOGIES**



豊中市立文化芸術センター 日建設計

豊中市は市民の文化芸術活動が活発な地域である。単なる高機能のアートセンターではなく、多世代が集う「まちづくりの拠点」としての役割がこの建築に求められた。市民の創意工夫で使いこなせる自由度、安心して集える空間の包容力、また多様な活動が偶発的に交わる密度を緻密に組み立てることで、より多くの人が集い・つながる施設を目指した。

人が文化芸術活動に自然に触れることができるように、公共性の高い場所から段階的に空間をつなぎ、また回遊性を与えることで、カフェの利用客や散歩ついでに立ち寄り客なども気づけば多様な文化芸術活動に触れられるような構成とした。開放性をコントロールできる多目的な会議室群を回廊ギャラリーに面して配置し、会議をしながらも自然に市民同士が触発される場となっている。

そうした交流の密度を高めるため、階高3m・軒高6mと住宅スケールを採用することで、従前の公共ホールに見られがちな威風を排除し、エントランスに入ると2階の回廊ギャラリーやミーティングルームのアクティビティが手に取るように感じられる。

また、空間の包容力を高めるために大規模建築では世界初の試みとなる「鉄筋コンクリート組積造(RM造)」を採用し約5万個のブロックを手作業で積み上げ、安心感と永続性を空間に与えた。

撮影：東出写真事務所・Vincent HECHT
第62回大阪建築コンクール大阪府知事賞受賞作品

■プロフィール

江副敏史(えぞえ・さとし)
1980年 京都大学工学部建築学科卒業後、日建設計
現在 同社デザインフェロー、京都大学・京都工芸
繊維大学非常勤講師
多喜 茂(たき・しげる)
1991年 金沢工業大学大学院修士課程修了後、日建設計
現在 同社設計主管
萩森 薫(はぎもり・かおる)
2003年 早稲田大学理工学研究所修士課程修了後、日建設計
現在 同社設計部門
宮本順平(みやもと・じゅんぺい)
2009年 京都造形芸術大学大学院芸術研究科修了後、日建設計
現在 同社設計部門

■建物データ

設 計：株式会社日建設計
施 工：大林組・河崎組特定建設工事共同企業体
所 在 地：豊中市曽根東町3丁目7番2号
主要用途：集会場(劇場、展示室、会議室等)
建 築 主：豊中市
敷地面積：16,660.11㎡
建築面積：6,624.67㎡
延床面積：13,425.30㎡
構造規模：鉄筋コンクリート組積造(RM造)、
一部RC造・SRC造・S造
地下1階・地上3階・塔屋1階
工 期：2013年9月～2016年8月

